

福島県 営農再開支援事業 飯舘村草野

農業総合センター福島市駐在

飯舘村草野 野菜類

実証課題：野菜類の放射性セシウム吸収抑制対策の実証

既存成果：加里施用による吸収抑制

（「大豆におけるカリウム等の施用による子実の放射性セシウムの吸収抑制」H24放射線関連支援技術情報
「放射性セシウム濃度が高くなる要因とその対策について 大豆」H25農水省、
（独）農業・食品産業技術総合研究機構、（独）農業環境技術研究所）

生産現場からの声

実施する項目

野菜の放射性セシウム
濃度を確認したい

果菜類、葉菜類、根菜類
多品目で知りたい

吸収抑制対策の実証

1 土壌分析と土壌改良

目標: 加里 (K₂O) 含量 40mg/100g
 塩基バランス (CaO/MgO=6以下、MgO/K₂O=2以上)
 pH6.5

土壌分析(栽培開始前)

土壌群	pH	EC	CEC	石灰	苦土	加里	可給態リン酸	放射性Cs
	[H ₂ O]	[mS/cm]	[me/100g]	[mg/100g]	[mg/100g]	[mg/100g]	[mg/100g]	[Bq/kg]
灰色低地土	6.0	0.1	13.0	179	49	35	12	300

※放射性Csは、11月19日を基準日として半減期補正を行いました。(以下同様)



使用資材と施用量

土壌改良	資材名	施用量	窒素	リン酸	加里
					(kg/10a)
	硫酸加里	15			8
	炭酸カルシウム	200			
	硫酸苦土	100			
	過リン酸石灰	130		27	
計			0	27	8
基肥	CDU555	100	15	15	15
合計			15	32	23



目標とする加里含量が約5mg不足していたため、土壌改良により補いました。

2 栽培試験



表土剥ぎ取り後に客土し
 土壌改良した農地では、
 どの品目も順調な生育
 でした。

3 放射性セシウム濃度

どの品目も食品中の放射性物質の基準値を十分に満たしました。

放射性セシウム濃度

品目	¹³⁴ Cs (Bq/kgFW)	¹³⁷ Cs (Bq/kgFW)	¹³⁴ Cs+ ¹³⁷ Cs
ミニトマト(ハウス)	N.D (<3.0)	N.D (<7.0)	N.D
キュウリ(ハウス)	N.D (<3.0)	N.D (<7.0)	N.D
サヤインゲン(ハウス)	N.D (<3.0)	N.D (<7.0)	N.D
サヤインゲン (ハウス・露地)	N.D (<3.0)	N.D (<7.0)	N.D
ブロッコリー	N.D (<3.0)	N.D (<7.0)	N.D
キャベツ	N.D (<3.0)	N.D (<7.0)	N.D
コマツナ	N.D (<3.0)	N.D (<7.0)	N.D
ハクサイ	N.D (<3.0)	N.D (<7.0)	N.D
カブ	N.D (<3.0)	N.D (<7.0)	N.D
ダイコン	N.D (<3.0)	N.D (<7.0)	N.D

※N.Dは、測定条件の検出限界以下であることを示します。



4 収穫物調査

品目	栽培開始	収穫開始	収穫終了	収穫量	目標収量
				[kg/a]	[kg/a]
キュウリ(ハウス)	6月3日	7月10日	8月10日	850	1000
ミニトマト(ハウス)	6月3日	7月24日	9月29日	349	600
サヤインゲン(ハウス)	6月3日	7月31日	8月11日	-	-
サヤインゲン	6月3日	8月7日	8月17日	125	200
ブロッコリー	7月29日	9月20日	10月1日	124	100
キャベツ	7月29日	9月27日	10月1日	317	500
コマツナ	8月30日	10月10日	10月10日	202	*165
ハクサイ	8月30日	11月19日	11月26日	1040	*497
カブ	8月30日	10月25日	10月25日	356	*296
ダイコン	8月30日	11月12日	11月26日	463	450

※収穫量は収穫物すべての重量としました。

※目標収量は福島県経営指標(H22)から引用し、*は経営指標の無い品目のため、農林水産統計 指定野菜に準ずる野菜等の作付面積、収穫量及び出荷量(H21)を参考にしました。